

## ——劣化ウラン兵器問題をめぐる最近の動き——

[作成：嘉指（かざし）信雄

NO DU ヒロシマ・プロジェクト代表]

2010年12月30日：『ガーディアン』：(Martin Chulov記者)

「ファールジャでの先天性障害や癌の増加は、  
米軍による攻撃が原因か—新たな調査が示唆」

新生児異常は平均の1.1倍：2004年の攻撃による汚染が原因か

記事全文は、<http://www.guardian.co.uk/world/2010/dec/30/faulluja-birth-defects-iraq>

- ・今回の調査結果は、来週発行されるThe International Journal of Environmental Research and Public Healthで発表されるもの。
- ・今年5月、ファールジャで生まれた547新生児のうち15%に深刻な先天性異常があり、同時期に生まれた赤ん坊の11%が妊娠後30週を経ずに出産され、14%が流産であった。
- ・住民は有害な環境因子に慢性的に曝されていると推測される。その因子が何かはまだ特定できていないが、テストを続行中である。さらなる調査への支援に関心をもつ科学者・財団などは、[bahar@umich.edu](mailto:bahar@umich.edu) にコンタクトしてほしい。

WHOによる調査は、バイアスのないものとはならないであろう。[WHOは、今年の夏から一年半の予定で、ファールジャにおける先天性異常増加に関する調査を開始しています。]

参照：“WHO suppressed evidence on effects of depleted uranium, expert says,” the British Medical Journal, November 2006 (11; 333(7576): 990)---  
<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC1635642/>

2010年11月20日

[CNN] 米軍、来春、アフガニスタンに戦車（劣化ウラン弾主要装備）投入へ

米軍が、来春、M1A エイブラムズ戦車をアフガニスタンに投入することを決定したというニュースです。M1A1 エイブラムズ戦車は、劣化ウラン弾を主要装備砲弾としているといわれる米軍の主力戦車です。アフガニスタンでも、以前から劣化ウラン兵器の使用が懸念されてきていますが、今後の状況が一層懸念される。

2010.7.27: Truthout (米)

「米軍は、湾岸戦争帰還兵の劣化ウラン被曝を懸念していた—米下院公聴会で判明」  
(下掲：抄訳-1)

7.23: アルジャジーラ続報

「イラク人権省は DU 弾使用をめぐり、英米に対し訴訟を起こす予定」

「現在、世界保健機関が先天性欠損症の増加について調査を進めている。イラクの医師たちは増加の原因は戦争時に使われた化学兵器と劣化ウラン弾にあるとみている。医師たちは、「癌の増加に懸命に対処している。とりわけ、米英軍による大規模な爆撃を受けた都市で増加が激しい」と述べている。イラク人権省はイラクで劣化ウラン弾を使用したことをめぐり、英米に対する訴訟を起こす予定である。同省は劣化ウラン兵器の被害者に補償を求めていく予定である。」

7.21: BBC ビデオニュース続報

「イラク・ファールジャの子どもたちの遺伝子損傷」 <http://bit.ly/apvAoU>

## 5.11：ロイター

「劣化ウランはイラクの人々の生命を脅かしている」

## 4.1.：Sky News

「WHO、イラク・ファルージャでの先天性異常増加を調査へ」

〔特に昨年秋から、イギリスのBBCや『ガーディアン』紙、それにアルジャジーラなどが、2004年に米軍の猛攻を受けたファルージャ（バグダッド西方約50キロ）で起きている先天性異常の急増を報じてきています。昨年11月13日、『ガーディアン』は、「あまりの事態の深刻さに圧倒されている医師たちは、国際社会からの支援を訴えている」と報じていましたが、WHOがついに独自調査を行うことを表明したというニュースです。動画ニュースもアップ—— <http://bit.ly/c7sSuF> 〕

### 〔4.19：緊急報告会（広島平和記念資料館）

「イラク・ファルージャの現状—劣化ウラン弾などによる攻撃の被害」／報告者：ワセック・ジャシム 〕

## 3.24：セルビア現地報道

「バルカン紛争が残した深刻な劣化ウラン被害」

## 3.10：アルジャジーラ続報

「ファルージャで先天性異常急増」 <http://bit.ly/dwv11T>

## 3.4：BBC

「ファルージャで先天性異常急増：劣化ウラン弾などが原因か」

（ファルージャを訪れているBBCのジョン・シンプソン記者によるレポート——

<http://bit.ly/cndAdZ>）

「現地の医師たちや子どもの親たちは、先天性異常が急増しており、それは米軍によって使用された兵器のせいだと訴えている。2004年の米軍による猛攻の際、白燐弾や劣化ウラン弾が使用されたと考えられているが、確証は得られていない・・・」

## 1.4.2010：アルジャジーラ（英語版）、劣化ウラン問題特集を放送

〔報道番組「Inside Iraq」が、イラクにおける癌急増と劣化ウラン兵器の関連を再び取り上げて、新年早々、放送。20分程の番組が、1月1日から1月4日にかけて6回再放送された模様。〕

今回の番組では、イラク・バスラのジャワッド・アル・アリ医師に加え、イギリスの放射線学専門家のクリス・バズビー博士が中継でインタビューに答えている。

番組で言及されている癌などの増加率については議論のあるところかと思われるが、アルジャジーラは2009年10月にも劣化ウラン問題を2度取り上げており、劣化ウラン問題への関心の高まりが感じられる。 <http://bit.ly/8Nzutq>

## 1.22.2010：ガーディアン

「イラクで深刻な放射能・ダイオキシン汚染／汚染地域ではガンや先天性障害が多発」

〔下掲：抄訳—2〕

## 11.13.：ガーディアン

「ファルージャで先天性障害急増」

## 10.14：アルジャジーラ（英語版）

『イラクにおけるウラン—イラク戦争の有毒な遺産』

〔2009年6月、Uranium in Iraq: The Poisonous Legacy of the Iraq Wars（『イラクにおけるウラン—イラク戦争の有毒な遺産』）を発行したアブドゥル・ハグ・アル・アニ氏のインタビュー〕

<http://bit.ly/5ZFCn>

## 10.13. 2009：アルジャジーラ（英語版）ビデオニュース

「イラクでの、がん急増と劣化ウラン」 <http://bit.ly/Me0Jj>

\* 関連ニュースの詳細については、「NO DU ヒロシマ・プロジェクト」ホームページをご覧くださいー <http://icbuw-hiroshima.org/>  
「ツイッター」でも関連ニュースを流しています。

[抄訳—1]

「7.27.2010: 米軍は、湾岸戦争帰還兵の劣化ウラン被曝を懸念していた」—米下院公聴会 (7/27) で判明

2010年7月28日

マイク・ルードウィック、「Truthout (真実を明るみに)」紙

[全文は、右記サイトを参照—— <http://bit.ly/b40Cjk> ]

以下抄訳——

「長い間、(米国) 政府は、・・・湾岸戦争やイラク戦争で使われた砲弾に含まれた劣化ウラン (DU) によってイラク市民や兵士たちが有害な影響をこうむってきていることを否定してきた。

しかし、1993年に、当時の陸軍准将エリック・シンセキ、現在の退役軍人省長官〔注：祖父母が日本人の日系三世。なお、祖父母の出身地は広島〕により書かれた、今までほとんど知られていなかった国防省メモにより、米国防省は、劣化ウラン汚染を懸念していて、毒性物質に曝露した全ての兵士を検査するよう命じていたことが明らかとなった。

「議会への報告草稿の検討：米陸軍における、劣化ウランの健康及び環境への影響——行動メモ」 (“Review of Draft to Congress - Health and Environmental Consequences of Depleted Uranium in the U.S. Army -- Action Memorandum”) と題されたシンセキのメモは、国防省からの、以下のような三つの指示の詳細に小さな修正を加えるものである。

1. 劣化ウランに汚染された装備と接触するかもしれない兵士に十分なトレーニングを与えること。
2. 湾岸戦争において、劣化ウランに曝露した全ての兵士に対する医学的検査を完全に行うこと。
3. 将来の軍事作戦のため、劣化ウランに汚染された装備を復旧するための計画を立てること。

しかしながら、復員軍人省は、医学的検査を決して行わなかった。そのため、何十万という帰還兵たちが、劣化ウラン被曝によって引き起こされたガンや他の病気のための医療的ケアを受けるチャンスを奪われてしまったのかもしれない。[以下略]

[抄訳—2]

2010年1月22日：英国『ガーディアン』オンライン版 [Martin Chulov: バグダッド]

イラクで深刻な放射能・ダイオキシン汚染／汚染地域ではガンや先天性障害が多発

\*\*\*

イラクに散在する深刻な放射能・ダイオキシン汚染：調査結果公表

汚染地域周辺では、がんや先天性障害が多発／汚染物質の中には劣化ウランも

イラクでは、30年にわたる戦争と無対策の結果、環境破壊が広がっており、40カ所以上の地域が高度の放射能やダイオキシンによって汚染されていることが、公式調査の結果明らかとなった。

汚染地域の約 25 パーセントが、ナジャフ、バスラ、ファルージャなどの大きな都市や町を含む地域となっている。これらの汚染地域は、過去 5 年間、がんや先天性障害の増加が認められる地域と重なっているように思われる。環境省・保健省・科学省による共同調査によれば、バグダッドやバスラ周辺のスクラップ金属置き場では、高度の電離放射線が検出されるが、これは、第一次湾岸

戦争や2003年のイラク戦争で使用された砲弾に含まれていた劣化ウランによるものと考えられる。

ナルミン・オスマン環境相によれば、「特にイラク南部の農地に含まれる高レベルのダイオキシンは、イラクの最も貧しい地域に住む人々の健康の全般的低下を引き起こしている主たる要因の一つとして、はっきりと考えられるようになってきている。バスラを見ると、非常に汚染された地域がいくつかあり、多くの要因が関係している。まず、バスラ地域は湾岸戦争やイラン・イラク戦争で戦場となったが、これらの戦争では様々な種類の砲弾が使用された。また、オイル・ラインも爆撃され、汚染物質のほとんどがバスラ及びその周辺地域に堆積されている。土壌は、最終的には人々の肺に入り込むし、人々が口にする食物に付着している。これらの地域では、とても高濃度のダイオキシンが見出される。これら全ての要因が、環境と人々の健康全般に関わる大規模な問題を引き起こしている」。

政府の調査グループは、最近、バグダッドの西に位置するファルージャに焦点をあてた。ファルージャは、戦争で破壊し尽くされているが、2004年に米軍と武装勢力との間で激しい戦闘があった後、不安定な治安状況のため、科学者が近づけないでいた。オスマン環境相は、「ファルージャで調査したのはまだ一地域にすぎないが、国際的協力も得て、近いうちに調査したい地域が他にもある」と述べた。

(以下略：原文は下記サイトを参照ください—— <http://bit.ly/6njBed> )

#### [補足関連情報—1]

2009年8月9日：

米国防省漏洩文書が明かす

「イラク・アフガニスタンへの劣化ウラン弾輸送」

下掲の文章は、劣化ウラン兵器のイラクやアフガニスタンへの輸送に関し、2005年5月19日、米国・国防省の担当官から米国・運輸省の担当官宛に出されたものが何らかのルートで外部に漏洩したものの日本語訳ですが、以下のことが読み取れるかと思えます。

- 1) 9.11以降のいわゆる「テロとの戦争」において、米軍は、劣化ウラン兵器をアフガニスタンやイラクに投入し続けてきていること。
- 2) 劣化ウラン兵器の投入は、「きわめて重要な」(critical)な意義を有するものとはっきりと位置づけられていること。“critical”という表現が、繰り返し使われており、劣化ウラン兵器が、現在、米軍にとり、主要兵器となっていること。
- 3) 劣化ウラン兵器の移送に伴う危険性も十分に認識されていること。
- 4) ただし、危険物質の移送に関し、軍によって定められた措置を講ずるにはかなりの費用がかかってしまうので、特別の免除待遇を、所轄官庁である米運輸省から受け続けているが、防衛省と運輸省との間には、まだ合意に達せないでいる点も存在すること。

\*\*\*

[以下、文書の日本語訳]

陸軍省・軍事交通管理コマンド本部

200 Stovall Street, Alexander, VA 22332-5000

2005年5月19日

ロバート・マクガイアー博士

「危険物質安全」副長官

合衆国・運輸省

マクガイア博士殿

国防省 (DOD) の代表として、我々、SDDC (陸海上補給展開コマンド) は、貴オフィスが、DOD に対し、数々の輸送上の免除措置や所轄官庁認可を与え続けてくださっていることに対し感謝いたします。これらの [免除措置や認可] に関する文書は、我々の任務の達成とグローバルな「テロとの戦争」の成功にとって不可欠なものです。

「劣化ウラン (DU) の安全輸送に関する DOD (国防省) の記録は、非の打ちどころのないもの (flawless) です。今まで、DOD による DU (劣化ウラン) 砲弾の移送において、安全上問題のある出来事は一つもありませんでした。こうした事実にもかかわらず、DOT-E 9649 (劣化ウラン砲弾の移送に関わる) は、我々が合意に達することができないでいる数少ない文書の一つです。私たちは、免除措置の更新が行われないならば、これらの決定的に重要な [critical] 砲弾をイラクやアフガニスタンの我が軍隊に供給し続けることが不可能になってしまうかもしれません。

DOD (国防省) は、この極めて重要な [critical] 件について、DOT (運輸省) と連携して行くことを望みます・・・ 敬具

パトリア・M・ヤング 長官補佐官

## [補足関連情報— 2 ]

2009 年 8 月 9 日

ドイツ軍マニュアルに記された

「アフガニスタンにおける劣化ウラン」対策

最近、ドイツの活動家たちが入手したドイツ連邦軍兵士用に作成された「マニュアル」から、アフガニスタンにおいても劣化ウラン兵器が使用されてきていることが確認されました。[注：ただし、その後の情報によると、ドイツ外務省関係者は、劣化ウラン対策の部分については、「予防原則」の観点から、劣化ウラン兵器がアフガニスタンにおいて使用されていることを想定して書かれていると述べている。]

この「マニュアル」は、アフガニスタンに派遣されるドイツ連邦軍兵士用に、2005 年後半、ドイツ連邦コミュニケーションセンターによって作成され、NATO 軍内での使用に限られた機密扱いマニュアルです。以下、要点の紹介ですが、「NO DU ヒロシマ・プロジェクト」ホームページには、「マニュアル」の写真もアップされていますので、ご参照ください。

\*\*\*

### 「マニュアル」の劣化ウランに関するセクション——

「タリバン体制に対する北部同盟を支持して行われた「不朽の自由作戦」(Operation Enduring Freedom) において、米空軍は、他の兵器とともに、劣化ウランを中心部に用いた、装甲貫通焼夷弾を使用した。このタイプの砲弾は、その自然発火する性質により、硬い標的 (戦車や車など) に対し使用された場合、ウランが燃える。燃焼により、毒性のあるチリが、特に標的やその周辺に堆積し、これらのチリは、容易に空気中に再び巻き上げられることとなる。」

続けて、その対策に関するセクションでは——

「劣化ウラン砲弾は、その重金属毒性および低レベル放射線により、被曝した人員に対し、毒物・放射線被害を引き起こしうる。こうした兵器が使用されたと疑われる場合——焼け崩れた車や戦車、車両群、あるいは 30 ミリ砲弾によって出来る典型的な穴が見つかった場合——砲弾が衝突した近辺においては、NBC (放射能・生物・化学的) 安全対策部隊がそうした脅威を完全に取り除くまで、防御スーツと NBC マスクを装着しなくてはならない。」

## ——劣化ウラン兵器禁止キャンペーン関連の重要な動き——

### (1) イタリア政府、劣化ウラン被害に苦しむ退役軍人に一括補償

2008年12月、イタリア政府が、劣化ウラン被曝のため重病にかかった帰還兵に対する3000万ユーロの一括補償を決定。カバーされる退役軍人1,703名のうち、77名はすでに亡くなっており、派遣された地域は、ボスニア=ヘルツェゴヴィナ、コソボ、アフガニスタン、イラクなどを含む。

### (2) ノルウェー政府、ICBUWの劣化ウラン問題調査に助成金支給決定

ノルウェーの外務省は、人権、軍縮、平和構築などの分野で活動する世界各地の団体に資金援助をしてきているが—最近では、クラスター爆弾禁止プロセスへの支援が広く知られている—今年度(2009年度)は、ICBUW(ウラン兵器禁止を求める国際連合)による調査プロジェクト3件に対しても助成金が支給されることとなった。ICBUWは、ここ数年ジェネーブやニューヨークで、各国の国連代表部などへのロビー活動を重ねてきているが、2007年10月、ニューヨークで開催された第4回ICBUW国際大会の後、ノルウェー代表部を訪れた際、今回の助成金への応募を勧められた。[この時の訪問では、朝一番の面談であったにもかかわらず、ノルウェー代表部の方が四、五名応対してくださり、そのこと自体にとっても驚いた。]

今回助成対象となったのは、下記の3つのプロジェクトである。

#### (1) バスラ地域の疫学調査

- ・ 目的：劣化ウラン兵器使用が一般市民の健康に及ぼしている影響に関する長期的調査
- ・ 助成金額(予定)：年25,000ユーロ(約325万円) / 支給年数：限定せず

#### (2) ウラン兵器の拡散・製造・売買についての調査

・ 目的：劣化ウラン兵器の保有国・保有量・種類などについて調査。専門研究員をICBUWマンチェスター事務所に置く。

- ・ 助成金額(予定)：年25,000ユーロ(約325万円) / 支給年数：3年

#### (3) バルカン半島における劣化ウラン汚染調査

・ 目的：90年代、旧ユーゴスラヴィアの紛争でNATOによって使用されたDU弾の影響についての現地調査。[2010年3月末から4月上旬にかけて、ICBUWメンバー4名が実施。日本から、運営委員の振津かつみに加え、フォト・ジャーナリストの豊田直巳さんが参加。]

- (ア) 助成金額(予定)：6,000ユーロ(約78万円)

- (イ) 支給年数：1年(2009年末までに実施)

今回、ノルウェー政府がICBUWの調査活動に対しする助成金支給を決めたことは、劣化ウラン兵器問題に関する国際的関心の高まりを象徴するものであり、禁止国際キャンペーンは、さらに新たな段階に入ったと言えよう。こうした勢いを活かしつつ、ウラン兵器廃絶の一日も早い実現に向けて、一層力を入れて取り組んでいきたい。

[イタリアでは、バルカンなどでウラン兵器に被曝し、病気になったり亡くなったりした退役軍人やその家族が、国に補償を求めて裁判に訴えるケースが、ここ数年、相次いでおり、政府も真剣な対応を余儀なくされています。昨年末には、国防大臣が「劣化ウラン被害者」の存在を初めて公に認め、ウラン兵器への被曝によって疾病に罹患した兵士に対する「補償」を行うことが閣議決定されました。NATO諸国のひとつであるイタリアでの、このような動きは、ウラン兵器被害者への補償・支援にとって重要であるだけでなく、そのような健康被害を引き起こすウラン兵器そのもの禁止に向けても大きな意義があります。]

(3) 2010年12月8日：

「劣化ウラン兵器使用に関する情報公開」を求める新決議、国連第一委員会で採択

2007年、2008年と二年連続して、国連総会で劣化ウラン問題関連決議が圧倒的多数で採択され、DU兵器の健康や環境への影響に関する見解を提出するよう、事務総長の名において、加盟国や関連機関に要請が出された。

さらに、2010年12月8日には、ニューヨークの国連総会において、「劣化ウラン兵器使用に関する情報公開」を求める新決議が、賛成148カ国、棄権30カ国、反対4カ国（第一委員会では、賛成136、棄権28、反対4）の賛成多数で採択されました。反対票は、第一委員会での投票と変わらず、アメリカ、イギリス、フランス、イスラエルの4ヶ国です。（この決議は、国連第一委員会では、10月に、同様に圧倒的賛成で採択されていたものです。）

国連総会で劣化ウラン兵器に関する決議が採択されるのは、2007年、2008年に続き3度目となります。

今回の総会での投票で賛成票が増えたのは、第一委員会での投票では欠席等で投票しなかった（主にアフリカの）非同盟運動(NAM)諸国が、NAMの共同提案ということで賛成票を投じたためです。棄権票が二票増えたのは、第一委員会では欠席していたPalauとSao Tome Princiの票です。

今回の新決議案での前進をふまえ、アメリカ、イギリス等には、劣化ウラン兵器がこれまで使用された地域での使用量、使用場所等の情報を公開するよう求め、汚染と被害の実態を明らかにさせるよう求めてゆきましょう。日本では、在日米軍基地内で保管されている劣化ウラン兵器の実態も明らかにさせるよう求めてゆかねばなりません。さらにウラン兵器の禁止に向けて、国内外での運動を一緒に力を合わせて強めてゆきましょう。ご支援の程、宜しく願いいたします！

「ウラン兵器禁止を求める国際連合」（ICBUW運営委員）：

嘉指信雄、森瀧春子、振津かつみ

## ——日本政府への働きかけ——

2010年2月5日

### 第1回「劣化ウラン兵器禁止を考える国会議員勉強会」

2月5日、衆議院第二議員会館で開催された「劣化ウラン兵器禁止に関する議員勉強会」は、同兵器禁止に向けた超党派国会議員の議論の場として、とても有意義な「勉強会」となりました。この「勉強会」は、「ウラン兵器禁止を求める国際連合（ICBUW）—ジャパン」が働きかけ、民主、社民、国民新党、自民、公明、共産、みんなの七党の10人の国会議員が連名で開催を呼びかけて開催されたものです。新政権成立後、初めて「ウラン兵器禁止」を明確に掲げた勉強会として開催されました。当日は30名を越える国会議員及び議員秘書（10議員の本人出席も含め、26の議員事務所から）が参加し、活発な質疑応答、議論がなされました。

ICBUW 運営委員として嘉指、振津が、「ウラン兵器の非人道性と禁止に向けた日本の役割／国際的な動き」を報告し、「日本イラク医療支援ネットワーク」（JIM ネット）事務局長の佐藤真紀氏が「イラクの小児がんに苦しむ子ども達の医療支援の現状」を報告しました。

参加された各党の議員からは、非人道的兵器であるウラン兵器の禁止に向けて、日本がもっと積極的な役割を果たすべきだという意見が相次いで出されました。そして新政権の下で、具体的な「結果を出してゆける」ように、議論を早急に進めるための議員勉強会として、今後も続けて行きたいという意向が表明されました。

超党派による議員学習会呼び掛け人

（五十音順）

秋葉 賢也 衆議院議員（自民）  
井上 哲士 参議院議員（共産）  
小野寺 五典 衆議院議員（自民）  
亀井 亜紀子 参議院議員（国新）  
近藤 昭一 衆議院議員（民主）  
斉藤 鉄夫 衆議院議員（公明）  
笠井 亮 衆議院議員（共産）  
阪口 直人 衆議院議員（民主）  
服部 良一 衆議院議員（社民）  
山内 康一 衆議院議員（みんな）

### 第3回「劣化ウラン兵器禁止を考える議員勉強会」（2010年11月12日）

[報告：佐藤真紀／JIM-NET（日本イラク医療支援ネットワーク）事務局長]

11月12日、国会議員による第三回「劣化ウラン弾禁止」勉強会が開催されました。

超党派の議員が呼びかけ、第三回の勉強会は、同兵器が使用された現場に何度も足を運んでいるフォトジャーナリストの豊田直巳氏による現状報告と、ニューヨークで今回の決議をめぐり、各国代表とそれぞれの動き等について面談したNGO「ウラン兵器禁止を求める国際連合」（ICBUW）振津運営委員からの報告をもとに、議論がなされました。

当日は、いくつかの重要な委員会と重なり、参加された議員も途中での退室がほとんどでしたが、議員6名＋秘書などによる代理参加が12名と、関心の高さが伝わりました。JIM-NETからは、佐藤事務局長が参加しました。写真はブログをご覧ください。

<http://kuroyon.exblog.jp/14401613/>

参加者：

阪口直人、生方幸夫、服部良一、福島みずほ、吉田忠智、川田龍平（以上本人）  
小野寺五典、空本誠喜、大野元裕、加賀屋健、高木美智代、大口善徳、津川祥吾、山内康一、松崎公昭、大河原雅子、道休誠一郎、金子原二郎（以上代理）

## 第4回「劣化ウラン兵器禁止を考える議員勉強会」(2011年2月8日)

[報告：佐藤真紀/JIM-NET 事務局長]

2月8日、参議院議員会館にて第四回「劣化ウラン兵器禁止に関する勉強会」が開催されました。今回は、「日本イラク医療支援ネットワーク」(JIM-NET)事務局長の佐藤真紀が、「クウェートは劣化ウランにどう取り組んでいるか」の報告と、「ウラン兵器禁止を求める国際連合」(ICBUW)の振津かつみが、「新たな『劣化ウラン兵器国連決議』の意義と日本の役割」についての報告を行いました。国会議員及び秘書を含め28名が参加し、政党も、民主、国民新党、社民、共産をはじめ、前与党の自民、公明からも参加があり関心の高い事が窺われました。

JIM-NETがまとめた「クウェートは劣化ウランにどう取り組んでいるのか」は、以下のサイトからダウンロードが可能です。[www.jim-net.net](http://www.jim-net.net)

「予防原則から禁止すべきというが、因果関係についての研究はされているか」井上哲士(共産)

「現在信州大学にイラクから医師が留学し、遺伝子解析の研究をされている。イラクとヨルダンの小児白血病患者の血液サンプルを採取し、解析中。何かわかるかもしれない」佐藤

「遺伝子解析で因果関係を解明するのは難しいと私は考えている。バスラの医者達のガン登録制度確立の支援を行ってきたが、環境汚染の実態も調べなければいけない。環境科学の専門家にも協力を求めたい。疫学調査の結果が出るのは広島を例をみても、10年—20年、あるいはもっとかかるかもしれない。それまで待っているわけにはゆかない。禁止に向けた政治家の決断がもとめられる。」振津

国会議員に届けよう!キャンペーン中

『ウラン兵器なき世界をめざして—ICBUWの挑戦—』

(合同出版、2008/第14回平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞受賞)

劣化ウラン兵器禁止国際キャンペーン関連の情報、メーリングリストやツイッターへの参加は、「NO DU ヒロシマ・プロジェクト」ホームページをご覧ください。  
<http://www.nodu-hiroshima.org/>